

重点施策部会の報告について

1 重点施策部会の検討事項

重点的な自殺対策の推進について検討を行う。

2 開催日時

令和5年10月12日（木曜日）午前10時から正午まで

3 議事等

- (1) 報告事項 東京都の自殺の現状等について
- (2) 討議事項 自殺総合対策の重点施策について

【主な意見】

(1) 早期に適切な支援窓口につなげる取組について

- ・電話相談やSNS相談を行った方が支援につながったかどうか、その後の満足度はどうかということの把握や分析ができるかよいのではないか。
- ・Xなどで自殺予告が行われていることを知った際、警察に通報することはハードルが高く感じられ、対応に苦慮する場合がある。そういった場合の対応方法について、整理できるとよいのではないか。
- ・相談窓口ではリピーターの方が回線を占めてしまうことがある。対応の時間を決めて案内する等、リピーターに対する対応の工夫が必要なのではないか。

(2) 自殺未遂者への継続的な支援について

- ・自殺リスクがある方の対応では、様々な機関が関わることが多いが、いろいろなところに関わるがために、基礎自治体の中でコーディネートをしてくれるキーパーソンがなかなか見つからない場合がある。誰がキーコーディネートの役割を果たしていくのか整理していくことが必要である。

(3) 働き盛りの方々の自殺防止について

- ・50名未満の規模の小さい事業場については、なかなか行政の情報が伝わりにくい部分があるため、いろいろな窓口を通じて周知するなど、周知方法について工夫する必要がある。
- ・企業規模が小さいほど、内部管理部門の体制も薄くなり、スケジュール調整が難しくなる。講習会の開催回数の増加やオンデマンド配信など、参加しやすい開催方法について検討する必要がある。

(4) 困難を抱える女性への支援について

- ・身体や精神の疾患を持っている産後の母親について、特に出産直後は支援が手薄になる恐れがある。物理的に預かる場所やケアする場所などの整備が必要ではないか。全戸訪問を支援につなげる機会とできるとよい。

(5) 若年層の自殺防止について

- ・学校の先生が授業の意味を理解するうえで「SOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育」としっかり銘打つことが大事である。自殺という言葉避けずに向き合うことが、リスクのある子に対応して、自殺をできるだけ防ぐことにもつながるのではないか。
- ・子供の自殺の場合、子供の原因に焦点が絞られ過ぎていると感じる。子供たちと接していると、子供を取り巻く環境や養育者の余裕のなさが、子供たちを追い詰めていることが見えてくる。車輪の両輪と考えて、大人のことも同時に考えていく必要がある。
- ・どのように関わる方たちの視野やスキルを上げていくかを具体的に検討していく必要がある。

(6) 遺された方への支援について

- ・10月から開設された相談窓口の対応状況については、今後また情報提供をしてもらいたい。